



Dermestes vorax Motschulsky, 1860

日本産ベニボタルの同定マニュアル, VII

松田 潔

〒 599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科昆虫学研究室

Identification manual of the lycid-beetles in Japan, VII

Kiyoshi MATSUDA

前回、ベニボタル亜科のスミアカベニボタル族の解説を行ったので、今回はカクムネベニボタル族と本族に所属する 2 属 6 種の解説を行いたい。

カクムネベニボタル族

Lyponiini Bocák & Bocáková, 1990

頭部は短く、口吻を欠く。複眼は小さい。触角は長く、雄では鋸歯状から扇状、雌では鋸歯状。前胸背板はほぼ四角形か台形で、前縁中央の真下に 1 本の縦隆条をそなえ、側縁部に 1 対の横隆起をもつ。上翅はほぼ平行状で、4 本の第 1 次縦隆線をそなえ、隆線間は 2 点刻列からなるか、同程度に隆起する 9 本の縦隆線をそなえ、隆線間は 1 点刻列からなる。雄交尾器は円筒状で、ペニスはしばしば先端部で横に広がり、1 対の突起をもつ。側片を欠く。基片は半円形で、非対称。旧北区東部と東洋区に分布する。

本族は Bocák & Bocáková (1990) により、ハナボタル族 Platerodini の新亜族として創設された。近年、雄交尾器の形態から、この亜族はツヤバネベニボタル亜科に移されたが (Kazantsev, 2003–2004)、現在は、ベニボタル亜科に所属する一族として分類されている (Bocák & Bocáková, 2008)。

日本産カクムネベニボタル族 Lyponiini

の属の検索表

1(2) 体は小型から中型。上翅は 4 本の第 1 次縦隆

線をそなえ、隆線間は 2 点刻列からなる。上翅の第 2・第 4 隆線はやや強く隆起する。雄交尾器のペニスは先端部に突起をもたないか、もつとしても先端部よりやや下の位置にもつ。

.....ヒメベニボタル属 (新称) *Lyponia*

2(1) 体は大型。上翅は 9 本の縦隆線をそなえ、隆線間は 1 点刻列からなる。上翅の縦隆線はほぼ同程度に隆起する。雄交尾器のペニスは先端部に 1 対の明瞭な突起をもつ。.....

.....カクムネベニボタル属 *Ponyalis*

ヒメベニボタル属 (新称) *Lyponia* C. O. Waterhouse, 1878

タイプ種: *Lyponia debilis* C. O. Waterhouse, 1878 (中国)。

[成虫] 体は小型から中型、側方がほぼ平行状で上下に平圧される。頭部は短く、口吻を欠く。複眼は小さい。小あごひげと下唇ひげの末端節は斧形。触角は長く、雄では鋸歯状から扇状、雌では鋸歯状。前胸背板は四角形か台形で、前縁中央の直下に 1 本の縦隆条をそなえ、側縁部に 1 対の横隆起をもつ (図 1)。小楯板は台形、先端部で多少とも内側に湾入する。上翅は 4 本の第 1 次縦隆線をそなえ、隆線間には 2 点刻列が認められる。上翅の第 2・第 4 隆線はやや強く隆起する。雄の第 8 腹板は先端部で V 字形に湾入し、末端腹板は紡錘状で、先端に向けて強く狭まる。雌の第 8 腹板は基部中央に短い突起をもち、

両端にも1対の細く、短い突起をそなえる。脚は中程度の長さで、転節は、名義タイプ亜属 *Lyponia* では長く、コガタカクムネベニボタル亜属 *Poniella* では短い。腿節は紡錘状。後脛節は細長く、先端に向けて少し広がり、後腿節とほぼ同長。爪は単純。雄交尾器は円筒形で、側片を欠き、ペニスはしばしば先端部で拡張される。基片は半円形で、非対称。
[幼虫] 未見。

旧北区東部と東洋区に分布し、これまでに18種が記録され、日本からは次の3種が知られている。

日本産ヒメベニボタル属 *Lyponia* の

亜属と種の検索表

- 1(4) 触角は雄で鋸歯状か弱い扇状、雌で鋸歯状。雄の触角第3節は密に短毛で被われる平らな部分をもつ（コガタカクムネベニボタル亜属 *Poniella*）。
- 2(3) 触角は雄雌ともに鋸歯状。5.0–8.0 mm。本州。……コガタカクムネベニボタル名義タイプ亜種 *Lyponia (Poniella) nigroscutellaris nigroscutellaris* (K. Ohbayashi)
- 3(2) 触角は雄で弱い扇状、雌で鋸歯状。7.0–8.0 mm。四国・九州。……コガタカクムネベニボタル四国・九州亜種 *Lyponia (Poniella) nigroscutellaris subpectinata* Nakane
- 4(1) 触角は雄で扇状か櫛歯状、雌で鋸歯状。雄の触角第3節は短毛で被われる平らな部分をもたない（名義タイプ亜属 *Lyponia*）。
- 5(6) 雄の触角第3節から10節の各分枝は、その節の長さとはほぼ等長。5.4–7.5 mm。本州・四国・九州・対馬。……ヒメベニボタル *Lyponia (Lyponia) delicatula* (Kiesenwetter)
- 6(5) 雄の触角第3節から10節の各分枝は、その節の長さよりも明らかに長い。7.0–9.9 mm。本州・国後島。……ヒメカクムネベニボタル *Lyponia (Lyponia) osawai* Nakane

1. ヒメベニボタル *Lyponia (Lyponia) delicatula* (Kiesenwetter, 1874) (図1–3, 6, 9, 10, 29, 30)

5.4–7.5 mm。体は暗赤褐色。頭部・触角・小楯板・脚は暗赤褐色。淡黄色の微毛で密に被われる。前胸背板は中央で暗赤褐色、周縁部で淡黄色、黄色の微毛でやや密に被われる。上翅は赤色、会合縁・隆線・側縁は赤色の微毛で密に被われるが、点刻内は無毛か同色の微毛を疎にもつ。前頭は短い。複眼は比較的小さく、雄の複眼間の距離は複眼長径の約1.8倍、雌では約2.4倍。触角は雄で扇

状、雌で鋸歯状。雄の触角第6節と第7節の分枝は、各節の長さの約2.0倍。小あごひげ末端節は斧形で、長さは幅の約1.4倍、前縁は幅広く丸められる。前胸背板は横長で、前縁が前方に幅広く、丸く張出し、側縁は基部に向けて弱く広がる。背面は前縁中央の直下に短い1本の縦隆条をもち、側縁中央に1対の弱い横隆起をもち、中央部で細かくやや密に点刻され、前縁部と側縁部で幅広く、粗く点刻される。小楯板は台形、先端部で弱く湾入する。上翅は4本の第1次縦隆線をそなえ、隆線間は2点刻列からなる。第2・第4縦隆線はやや強く隆起する。第3・第4隆線間は端部1/2で1点刻列になる。雄の腹部第8腹板は先端でV字形に幅広く湾入する。脚の転節は長く、雄の前脚と中脚の転節下面は平たくなり、短毛で密に被われる。腿節・脛節ともに細長く、跗節の爪は単純。雄交尾器のペニスは細長く、円筒形で、先端に向けて次第に狭まり、突起をもたない。側片を欠く。基片は半円形で、非対称。4～7月に出現する。分布：本州・四国・九州・対馬。

2. ヒメカクムネベニボタル *Lyponia (Lyponia) osawai* Nakane, 1969 (図4, 7, 11, 12, 31, 32)

7.0–9.9 mm。体は黒色または黒褐色。頭部・触角・小楯板・脚は黒褐色から暗赤褐色、黄色の微毛で密に被われる。前胸背板は中央で暗赤褐色、周縁部で淡黄色、黄色の微毛でやや密に被われる。上翅は赤色、会合縁・隆線・側縁は赤色の微毛で密に被われるが、点刻内は無毛か同色の微毛を疎にもつ。前頭は短い。複眼は小さく、雄の複眼間の距離は複眼長径の約2.1倍、雌では約2.5倍。触角は雄で扇状、雌で鋸歯状。雄の触角第6節と第7節の分枝は、各節の長さの約2.2倍。小あごひげ末端節は斧形で、長さは幅の約2.0倍、前縁は幅広く、丸められる。前胸背板は横長で、前縁が前方に幅広く、丸く張出し、側縁は基部に向けて弱く広がる。背面は前縁中央の真下に短い1本の縦隆条をもち、側縁中央に1対の弱い横隆起をもち、中央部で細かく密に点刻され、前縁部と側縁部で幅広く、粗く点刻される。小楯板は台形、先端部で強くV字形に湾入する。上翅は4本の第1次縦隆線をそなえ、隆線間は2点刻列からなる。第2・第4縦隆線はやや強く隆起する。第3・第4隆線間は端部1/5で1点刻列になる。雄の第8腹板は先端部でV字形に深く湾入する。脚の転節は長い。雄の前脚転節下面は幅広く、平たくなり、細かい点刻で密に被われ、短毛を疎らにそなえる。腿節はやや太く、脛

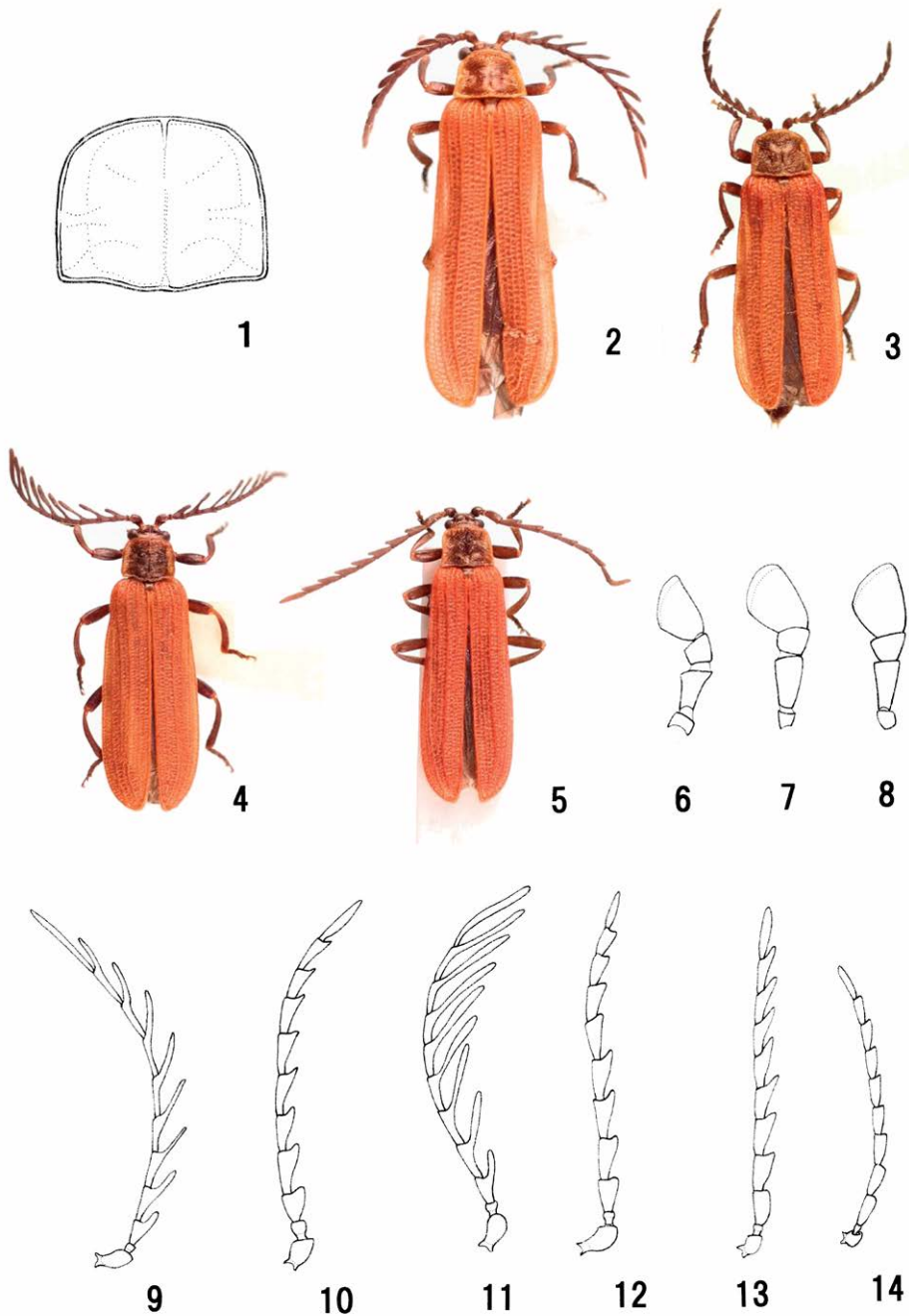


図1-14. ヒメベニボタル属の前胸背板(1), 背面図(2-5), 小あごひげ(6-8), 触角(9-14). 1, 2, 3, 6, 9, 10, ヒメベニボタル(2, 9, ♂; 3, 10, ♀); 4, 7, 11, 12, ヒメカクムネベニボタル(4, 11, ♂; 12, ♀); 5, 8, 13, 14, コガタカクムネベニボタル(5, 13, ♂; 14, ♀).

節は細長く、先に向けて少しずつ広がる。附節の爪は単純。雄交尾器のペニスはやや太く、円筒形で、腹面から見て、先端1/3に大きい開口部をそなえ、内部に円錐状の突起をもつ。側片を欠く。基片は半円形で、非対称。4～7月に出現する。分布：本

州・国後島。

3. コガタカクムネベニボタル *Lyponia (Poniella) nigroscutellaris* (K. Ohbayashi, 1956) (図5, 8, 13, 14, 33, 34)

5.0–8.0 mm. 体は暗赤褐色. 頭部・触角・小楯板・脚は暗赤褐色, 淡黄色の微毛で密に被われる. 前胸背板は中央で暗赤褐色, 隆起縁と側縁部で黄褐色, 黄色の微毛でやや密に被われる. 上翅は赤色, 会合縁・隆線・側縁は赤色の微毛で密に被われるが, 点刻内は無毛かまれに赤色の微毛を疎にもつ. 前頭は短い. 複眼は比較的小さく, 雄の複眼間の距離は複眼長径の約 1.8 倍, 雌では約 2.4 倍. 触角は雄で鋸歯状か弱い扇状 (名義タイプ亜種 *L. (P.) nigroscutellaris nigroscutellaris* (K. Ohbayashi) では, 強い鋸歯状), 雌で鋸歯状. 雄の触角第 3 節は, 大きく平らな部分をもち, 内部は細かく点刻され, 短毛で密に被われる. 小あごひげ末端節は斧形で, 長さは幅の約 1.2 倍, 前縁は幅広く丸められる. 前胸背板は横長で, 前縁が前方に弱く張出し, 両側縁はほぼ平行. 背面は前縁中央の真下に細く, 短い 1 本の縦隆条をそなえ, 側縁中央に 1 対の弱い横隆起をもち, 中央部で細かく密に点刻され, 前縁部で幅広く, 粗く点刻される. 小楯板は台形, 先端部で弱く湾入する. 上翅は 4 本の第 1 次縦隆線をそなえる. 第 2・第 4 縦隆線はやや強く隆起する. 隆線間は 2 点刻列からなるが, 第 3・第 4 隆線間は端部 1/4 で 1 点刻列になる. 転節は短く, 腿節・脛節ともに細長い. 跗節の爪は単純. 雄交尾器のペニスは太短く, 円筒形で, 先端部のやや下に 1 対の突起をもつ. ペニスの先端にある開口部は大きく, 中央から細い円錐状の突起が斜め前方に伸長する. 側片を欠く. 基片は半円形で, 非対称形. 4~6 月に出現する. 分布: 本州・四国・九州.

[備考] コガタカクムネベニボタル亜属 *Poniella* は, Kazantsev (2002) により *Lyponia gongashanica* Bocák, 1999 (中国) をタイプ種として創設された. この際, ヒメベニボタル属の名義タイプ亜属との区別点として, 雄の触角第 3 節が短毛をもつ平らな面をそなえること, 前脚の転節が異形にならず, 短いこと, 雄交尾器のペニスが太く, 短く, しばしば小さい突起をもつことの 3 つの特徴があげられている. これまで, 本亜属に所属するベニボタルは, 中国と台湾, 日本に分布する 6 種が知られている (Bocáková & Bocák, 2007). コガタカクムネベニボタルの名義タイプ亜種は本州西部に分布する. 四国・九州亜種 *L. (P.) nigroscutellaris subpectinata* Nakane は, 触角第 4 節からの分枝が名義タイプ亜種と比べてより長くなる. 本州中部以北に分布するコガタカクムネベニボタルの個体群にも触角に同様の特徴が見られるので, 今後, 本種に関しては, より詳しい検討が必要である.

カクムネベニボタル属 *Ponyalis* Fairmaire, 1900

タイプ種: *Ponyalis laticornis* Fairmaire, 1900 (中国).

[成虫] 体は中型から大型, 側方がほぼ平行状で, 上下に平圧される. 頭部は短く, 口吻を欠く. 複眼は小さい. 小あごひげと下唇ひげの末端節は斧形. 触角は長く, 雄では扇状, 雌では鋸歯状. 雄の触角第 1 節は, 下面が平たく, 細かく密に点刻される. 前胸背板はほぼ四角形で, 前縁中央の直下に 1 本の縦隆条をそなえ, 側縁部に 1 対の横隆起をもつ (図 15). 上翅は同程度に隆起する 9 本の縦隆線をそなえ, 隆線間は横長の 1 点刻列からなる. 雄の第 8 腹板は先端部で V 字形に湾入し, 末端腹板は紡錘状で, 幅広く, 先端部で強く狭まる. 雌の第 8 腹板は基部中央にやや長い針状突起をもち, 両端にも 1 対の短い突起をそなえる. 脚は中程度の長さで, 転節は短く, 腿節は太い. 後脛節は後腿節とほぼ同長. 爪は単純. 雄交尾器は円筒形で, 側片を欠き, ペニスは先端部に 1 対の明瞭な突起をもつ. 基片は半円形で, 非対称.

[幼虫] 体は細長く, 上下に平圧される. 頭部は 1 対の大きい単眼をもつ. 大あごは細長く, 内側に向かってわずかに曲がる. 触角は 2 節からなり, 末端節は太短く, 先端が幅広く丸くなる. 胸部 3 節と腹部第 1~第 8 節の背板後縁に 4 つの短い突起をそなえる. 腹部第 9 節は尾突起をもつ. 脚は細く, 比較的長い (Bocák & Matsuda, 2003).

旧北区東部と東洋区に分布し, これまでに 16 種が記録され, 日本からは次の 3 種が知られている.

日本産カクムネベニボタル属 *Ponyalis* の種の検索表

- 1(4) 雄交尾器のペニスは, 中央から先端に向けて強く狭まり, 先端部は鋸形になる.
- 2(3) 上翅は比較的長い. 雄交尾器のペニスは比較的長い. 10.5–15.2 mm. 奄美大島. …………… オオシマカクムネベニボタル名義タイプ亜種 *Ponyalis oshimana oshimana* (Nakane)
- 3(2) 上翅は比較的短い, 雄交尾器のペニスは比較的短い. 8.7–13.9 mm. 沖縄島. …………… オオシマカクムネベニボタル沖縄亜種 *Ponyalis oshimana matsumurai* (Matsuda)
- 4(1) 雄交尾器のペニスは, 中央から先端に向けてほぼ同じ太さか, 弱く狭まる.
- 5(6) 小あごひげはその幅とほぼ等長か, 幅よりわずかに長い. 触角の分枝は, 雄雌ともに幅が狭い. 7.0–13.0 mm. 本州・四国・九州・隠

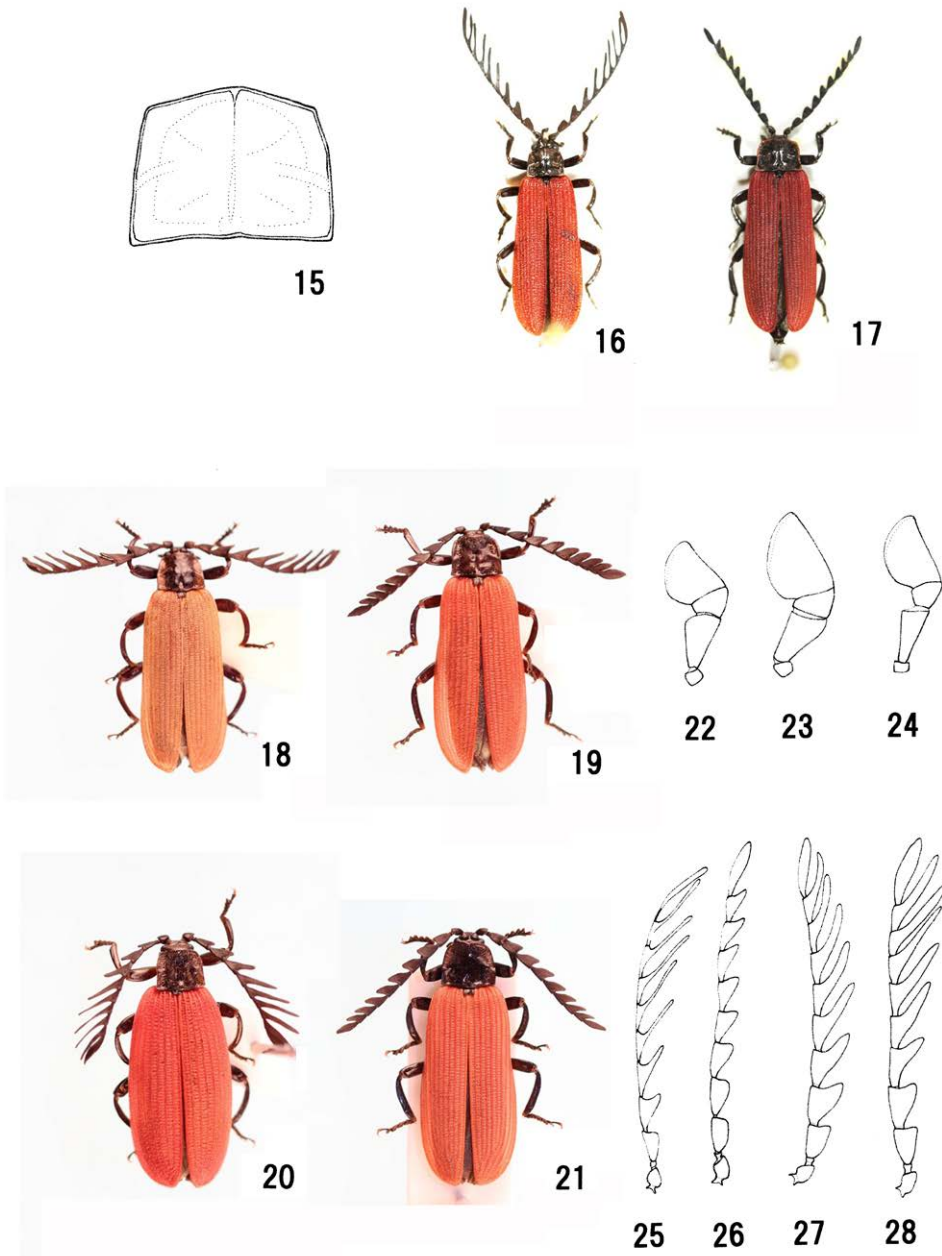


図15-28. カクムネベニボタル属の前胸背板 (15), 背面図 (16-21), 小あごひげ (22-24), 触角 (25-28). 15, 16, 17, 22, 25, 26, カクムネベニボタル (16, 25, ♂; 17, 26, ♀); 18, 19, 23, 27, オオシマカクムネベニボタル (18, 27, ♂; 19, ♀); 20, 21, 24, 28, イシガキカクムネベニボタル (20, 28, ♂; 21, ♀).

岐; 韓国. カクムネベニボタル
Panyalis quadricollis (Kiesenwetter)

6(5) 小あごひげはその幅と比べて明らかに長い。
触角の分枝は、雄雌ともに幅が広い。7.0-15.2
mm. 石垣島・西表島; 中国 (福建省).
.....イシガキカクムネベニボタル
Panyalis ishigakiana (Nakane)

4. カクムネベニボタル *Panyalis quadricollis*
(Kiesenwetter, 1874) (図15-17, 22, 25, 26, 35, 36)

7.0-13.0 mm. 体は黒色。頭部・触角・小楯板・
脚は黒色または黒褐色, 黄褐色の微毛でやや密に
被われる。前胸背板はふつう一様に黒色または黒
褐色であるが, しばしば, 隆起縁と側縁部が黄褐

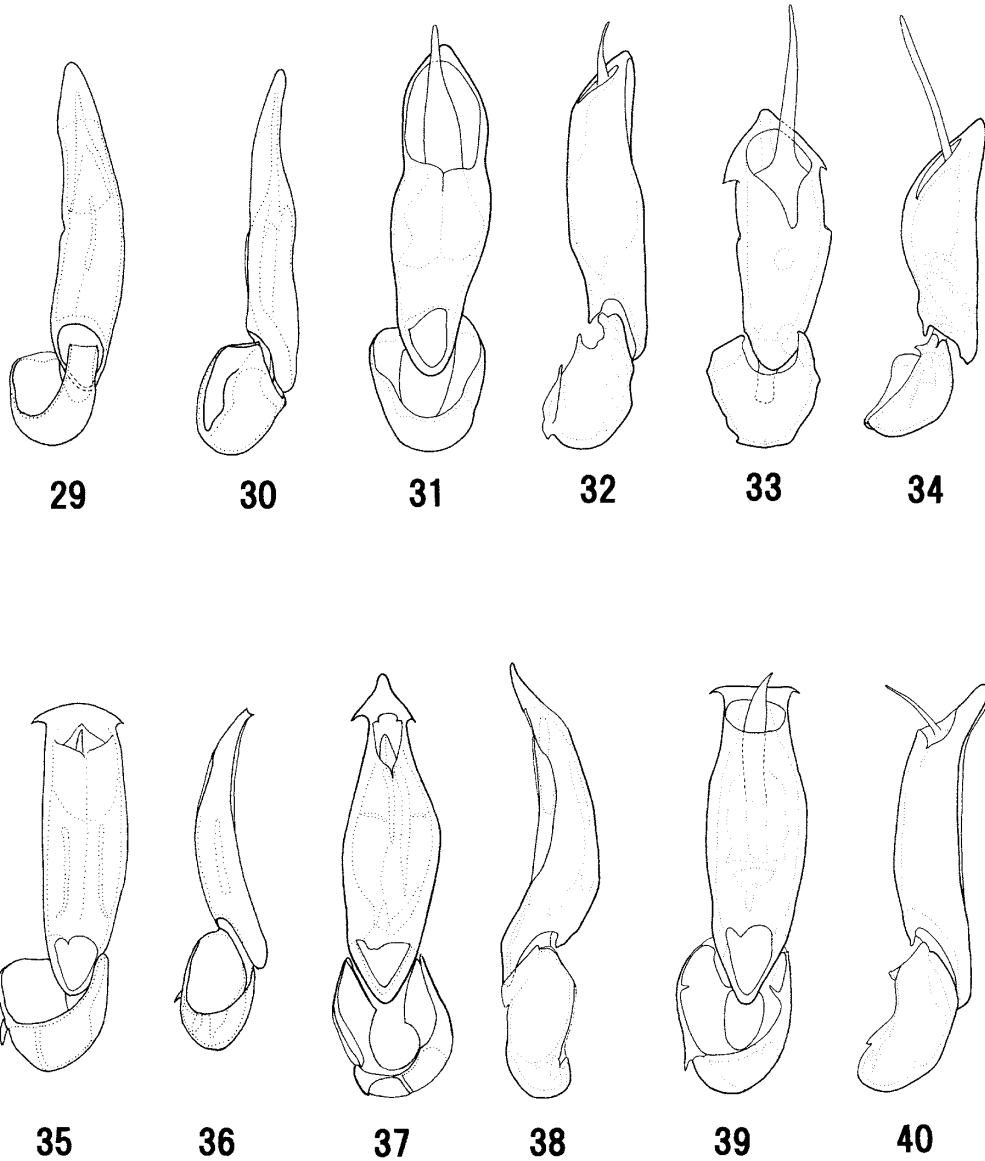


図29-40. 雄交尾器 (29-40: 29, 31, 33, 35, 37, 39, 腹面; 30, 32, 34, 36, 38, 40, 側面). 29, 30, ヒメベニボタル; 31, 32, ヒメカクムネベニボタル; 33, 34, コガタカクムネベニボタル; 35, 36, カクムネベニボタル; 37, 38, オオシマカクムネベニボタル; 39, 40, イシガキカクムネベニボタル.

色になる。上翅は赤色，会合縁・隆線・側縁は赤色の微毛で密に被われるが，点刻内は赤色の微毛を疎にもつ。前頭は短い。複眼は小さく，雄の複眼間の距離は複眼長径の約2.1倍，雌では約2.7倍。触角は雄で扇状，雌で鋸歯状。雄の触角第8節と第9節の分枝は，各節の長さの約3.2倍。小あごひげ末端節は斧形で，長さは幅の約1.2倍，前縁は幅広く丸められる。前胸背板は横長で，前縁は前方にわずかに張り出すか，ほぼ一直線状で，両側

縁はほぼ平行。背面は前縁中央の真下に短い1本の縦隆条とこれに続く縦溝をそなえ，側縁中央に1対の幅広い横隆起をもち，中央部で細かく密に点刻され，側縁部で幅広く，粗く点刻される。小楯板は台形，先端部でV字形に湾入する。上翅は9本の縦隆線をそなえ，隆線間は横長の，不規則な1点刻列からなる。転節は短く，腿節はややたく，脛節は細長く，弧状に曲がる。跗節の爪は単純。雄交尾器のペニスは太く，長く，円筒形で，腹面

から見て、先端部に大きい開口部をそなえ、内部に円錐状の突起をもち、また、先端部両側に鋭い突起をもつ。側片を欠く。基片は半円形で、非対称。3～7月に出現する。分布：本州・四国・九州・隠岐；韓国。

[備考] 本種は日本産ベニボタルの中で、クロハナボタル *Plateros coracinus* (Kiesenwetter) とともに平地から山地まで最もふつうに見られるベニボタルである。幼虫は日陰の湿ったアカマツの朽木表面や林床のリター内から発見されることが多い。終齢幼虫は10月から11月の期間に蛹化と羽化を行い、新成虫になって蛹室内で越冬する(松田, 1997; Bocák & Matsuda, 2003)。

5. オオシマカクムネベニボタル *Ponyalis oshimana* (Nakane, 1961) (図18, 19, 23, 27, 37, 38)

8.7–15.2 mm. 体は黒色。頭部・触角・小楯板・前胸背板・脚は黒色または黒褐色、赤味を帯びた黄色の微毛でやや密に被われる。上翅は赤色、会合縁・隆線・側縁は赤色の微毛で密に被われるが、点刻内は赤色の微毛を疎にもつ。

前頭は短い。複眼は小さく、雄の複眼間の距離は複眼長径の約2.5倍、雌では約2.8倍。触角は雄で扇状、雌で鋸歯状。雄の触角第8節と第9節の分枝は、各節の長さの約2.2倍。小あごひげ末端節は斧形で、長さは幅の約1.4倍、前縁は幅広く丸められる。前胸背板は横長で、隆起縁は狭く、前縁は前方にわずかに張り出し、両側縁は基部に向かって弱く広がる。背面は前縁中央の真下に短い1本の縦隆条とこれに続く縦溝をそなえ、側縁中央部に1対の幅広い横隆起をもち、中央部で細かく、やや密に点刻され、側縁部で幅広く、粗く点刻される。小楯板は台形、先端部でV字形に湾入する。上翅は9本の縦隆線をそなえ、隆線間は横長の、不規則な1点刻列からなる。転節は短く、腿節はやや太く、脛節は細長く、弧状に曲がる。附節の爪は単純。雄交尾器のペニスは太く、長く、紡錘形で、先端部は鋸形になり、両側に鋭い突起をもつ。腹面から見て、先端部に大きい開口部があり、内部に円錐状の突起をもつ。側片を欠く。基片は半円形で、非対称。3～4月に出現する。分布：奄美大島・沖縄島。

[備考] オオシマカクムネベニボタルの名義タイプ亜種は奄美大島に分布する。沖縄亜種 *P. oshimana matsumurai* (Matsuda, 2009) は、筆者により沖縄県国頭村与那をタイプ産地として記載されたが、名義タイプ亜種からは、上翅がより短いこと、

雄交尾器のペニスがより短く、形状も異なることなどにより区別できる。

6. イシガキカクムネベニボタル *Ponyalis ishigakiana* (Nakane, 1961) (図20, 21, 24, 28, 39, 40)

7.0–15.2 mm. 体は黒色。頭部・触角・小楯板・前胸背板・脚は黒色または黒褐色、黄色の微毛でやや密に被われる。上翅は赤色、会合縁・隆線・側縁は赤色の微毛で密に被われるが、点刻内は赤色の微毛を疎にもつ。

前頭は短い。複眼は小さく、雄の複眼間の距離は複眼長径の約2.7倍、雌では約2.9倍。触角は雄で扇状、雌で鋸歯状。雄の触角第8節と第9節の分枝は、各節の長さの約3.5倍。小あごひげ末端節は斧形で、長さは幅の約1.7倍、前縁は幅広く丸められる。前胸背板は横長で、隆起縁は狭く、前縁は前方にわずかに張り出し、両側縁は基部に向かって弱く広がる。背面は前縁中央の真下に短い1本の縦隆条とこれに続くやや深い縦溝をそなえ、側縁中央部に1対の幅広い横隆起をもち、中央部で細かく、やや密に点刻され、側縁部で幅広く、粗く点刻される。小楯板は台形、先端部で弱く湾入する。上翅は9本の縦隆線をそなえ、隆線間は横長の、不規則な1点刻列からなる。転節は短く、腿節は太い。脛節はやや太く、弧状に曲がる。附節の爪は単純。雄交尾器のペニスは太く、長く、紡錘形で、先端部両側に鋭い突起をもつ。腹面から見て、先端部に大きい開口部があり、内部に円錐状の突起をもつ。側片を欠き、基片は半円形で、非対称。3～4月に出現する。分布：石垣島・西表島；中国(福建省)。

[備考] 本種の中国での分布はBocák (1999) によるが、論文付図に示された中国(福建省)産の雄交尾器は、石垣島産のものと比較して、ペニスの先端部がより強く突出する。

末筆ながら、本稿をまとめるにあたり、貴重な標本の協力をいただいた京都市の正木清氏、宇治市の水野弘造氏、宝塚市の奥田好秀氏、西宮市の杉野廣一氏、有田郡湯浅町の的場績氏、甲州市の沢井稔氏、東京都の酒井香氏、今治市の白石正人氏、沖縄県の松村雅史氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Bocák, L., 1999. A revision and phylogenetic analysis of the genus *Lyponia* C. O. Waterhouse, 1878 (Coleoptera, Lycidae). *Entomologica Basiliensia*, 21: 59–103.
Bocák, L. & M. Bocáková, 1990. Revision of the supergeneric classification of the family Lycidae (Insecta: Coleoptera).

- Polskie Pismo Entomologiczne, 59: 623–676.
- Bocák, L. & M. Bocáková, 2008. Phylogeny and classification of the family Lycidae (Insecta: Coleoptera). *Annales Zoologici*, 58(4): 695–720.
- Bocáková, M., & L. Bocák, 2007. Lycidae, In *Catalogue of Palaearctic Coleoptera*, Vol. 4, Elateroidea-Derodontoidea-Bostrichoidea-Lymexyloidea-Cleroidea-Cucujoidea, edited by I. Löbl & A. Smetana, Apollo Books, Stenstrup: 935 pp.
- Bocák, L. & K. Matsuda, 2003. Review of immature stages of the family Lycidae (Insecta: Coleoptera). *Journal of Natural History*, 37: 1463–1507.
- Fairmaire, L., 1900. Descriptions des Coléoptères nouveaux recueillis en Chine par M. de Latouche. *Annales de la Société Entomologique de France*, 68 [1899]: 616–649.
- Kazantsev, S. V., 2002. Supplementary notes to the revision of the genus *Lyponia* Waterhouse, 1878 (Coleoptera: Lycidae) with description of new taxa. *Russian Entomological Journal*, 11 (2): 197–206.
- Kazantsev, S. V., 2003–2004. Morphology of Lycidae with some considerations on evolution of the Coleoptera. *Elytron*, 17–18: 73–248.
- Kiesenwetter, H., 1879. *Coleoptera Japoniae collecta a Domino Lewis et aliis*. *Deutsche Entomologische Zeitschrift*, 23: 305–320.
- Kleine, R., 1933. Lycidae, *Coleopterorum Catalogus*, edited by S. Schenkling, Pars 128, W. Junk, Berlin. 145 pp.
- Kleine, R., 1942. Bestimmungstabelle der Lycidae. *Bestimmungstabellen der europäischen Coleopteren*, 123: 90 pp.
- 松田 潔, 1997. ベニボタル科の幼虫. *昆虫と自然*, 32(2): 14–18.
- Matsuda, K., 2009. Taxonomic notes on the lycid-beetles (Coleoptera: Lycidae) from Japan, I. - Descriptions of five new taxa from the Ryukyu Islands, Southwest Japan. *Entomological Review of Japan*, 64: 51–65.
- Nakane, T., 1961. The lycid-beetles from the Loochoo Islands, with description of a few new forms (Coleoptera). *Entomological Review of Japan*, 13: 11–15.
- Nakane, T., 1969. Lycidae (Insecta, Coleoptera), *Fauna Japonica*, Academic Press of Japan, Tokyo. 224 pp.
- Ohbayashi, K., 1956. New Lycidae from Japan (Coleoptera). *Akita*, 5 (3): 57–59.
- 佐藤正孝・松田 潔, 1985. ベニボタル科, 92–107, 109. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之(編著) *原色日本甲虫図鑑 (III)*, 500 pp., 保育社, 大阪.
- Waterhouse, C. O., 1878. On the different forms occurring in the Coleopterous family Lycidae, with descriptions of new genera and species. *Transactions of the Entomological Society of London*, 1878: 95–118.
- Waterhouse, C. O., 1879. *Lycidae*, Illustration of typical specimens of Coleoptera in the collection of the British Museum, Part I, London. 83 pp.

(2014年2月10日受領, 2014年2月13日受理)

【短報】オオメキノコツヤハネカクシ (*Gyrophaena* 属) 石垣島からの記録

オオメキノコツヤハネカクシ *Gyrophaena appendiculata* Motschulsky, 1858 は, 雄の腹部基部3節, 特に第6腹板に顕著な突起を持つことにより同属の中でも唯一同定が容易な種である (Motschulsky, 1858; 中根, 1963). 現在までの分布は国内では本州, 九州, 種子島, 屋久島, 奄美大島, 国外ではフィリピン, マレーシア, インドの他に東南アジアに広く分布していることが報告されている (柴田ほか, 2013). 石垣島の記録がないので, 古い記録と合わせて分布解明の一助として報告する. 写真は石垣産の♂である.

1♂, Mt. Manse (前勢岳), Ishigaki Is., Okinawa Pref., 11-V-2012, I. Tanaka leg. 1♂, Mt. Yarabu (屋良部岳), Ishigaki Is., Okinawa Pref., 6-II-2005, K. Kusano leg. 2♂♂, 2♀♀, Mt.



図1. オオメキノコツヤハネカクシ. 石垣産♂.

Omoto (於茂登岳), Ishigaki Is., Okinawa Pref., 29-VII-1964, T. Ito leg.

貴重な標本を委ねられた草野憲二氏に感謝する.

引用文献

- Motschulsky V. de, 1858. Énumération des nouvelles espèces de coléoptères rapportés de ses voyages. *Bulletin de la Société Impériale des Naturalistes de Moscou*, 31(3): 204–264.
- 中根猛彦, 1963. ハネカクシ科, p. 81–100+col. pls. 41–50. 中根猛彦ほか編: 「原色甲虫図鑑」第2巻 (甲虫編), 18 + 443 pp.+ 192 col.pls. 北隆館, 東京.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録 (昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, 11: 69–218.

(伊藤建夫 614-8371 八幡市男山雄徳7, E12-102)

(田中 勇 662-0874 西宮市六軒町 8-7)